

## 富山市定例市長記者会見（令和2年4月1日）

### ■冒頭あいさつ

市長

年度が替わりまして、4月1日、いよいよ令和2年度が始まりました。時々口にしてはいる私がいつも思っていることですが、日本の文化、社会は非常に優れていると毎年4月1日に思います。

暦年と会計年度とがあって、1月1日にリセットできた頭が、気が付くと3か月たって、また少し、生煮えナマコみたいに鮮度が悪くなってきているところを4月1日に新年度ということでもう一度リセットできるという日本の文化は良い仕組みだなと思っていますが、そういう意味で今日、もう一度リセットして新年度しっかり仕事をしていこうという思いであります。

午前中の部局長会議で各部局長にも、気合を入れて良い充実した一年をつくっていこうと言いました。私の任期が切れるのも来年の4月23日ということで1年しかありませんので、今年度予算は今日から執行が始まりますけれども、スピード感を持ってしっかりやっていきたいというふうに思っています。

今の世の中の動きの関連から言うと、国の補正予算もどの時期にどの程度のものが出てくるかわかりませんが、しかし経済対策でかなり思い切ったことをやるだろうということは容易に予想がつきますので、いろいろなメニューが出てきたときには、市の立場から使えるもの、あるいは時期を待っていたもの、いろいろなものがあるわけですので、積極的に国の補正にも対応していきたいというふうに思っております。

そういうことですので、本年度1年間もまたよろしくお願いを申し上げます。

## ■令和2年度 富山市ガラス美術館 特別企画展 「木梨憲武展 Timing-瞬間の光り-」の開催について

市長

実は、先週の金曜日（3月27日）に木梨さんご本人に富山においでをいただき、ご本人から概要を発表していただく予定としておりましたが、新型コロナウイルスの影響で、残念ながら、お越しいただくことができなかったため、私のほうから、申し上げる次第であります。

今年の10月10日（土）から、富山市ガラス美術館の特別企画展として、「木梨憲武展 Timing（タイミング）－瞬間の光り－」を開催することとなりました。昨年度から、木梨憲武さんご本人や本展覧会を企画なさっている産経新聞社など関係者と協議を重ねてまいりました。展覧会の概要が固まりましたので、発表することとなりました。

今後、この特別企画展について、積極的にPR活動を展開してまいりたいと考えております。

なお、本展覧会は、本市と北日本放送で構成する実行委員会の主催で開催することとしております。

この木梨さんの展覧会は、これまで、ロンドンと現在開催中の長崎での開催を含め、国内13カ所で開催されている巡回展であります。

北陸で言いますと、2018年に金沢21世紀美術館で開催されており、また今月18日からは福井市美術館で開催される予定となっております。

（※福井市美術館での開催は4月10日に開催中止の発表がありました。）

富山市ガラス美術館での開催は、10月10日（土）から11月23日（月・祝）まで、閉場日を除く43日間で、県内では、今回が初の開催となります。

展覧会の内容につきましては、タレントとして活躍される一方で、アーティスト活動でも注目を浴びていらっしゃる木梨さんが制作された、絵画、ドローイング、オブジェ、映像作品などの最新作を中心に、幅広い作品群150点以上を一堂に紹介する展覧会となっております。

今回、富山市ガラス美術館での展示作品の目玉といたしましては、木梨さんと富山ガラス工房の作家が共同でオリジナルのガラス作品を制作し、

出品することとしており、「ガラスの街とやま」ならではの作品ですので、ぜひご期待いただきたいと思います。

これまでのいずれの会場も、木梨さんのファンをはじめ多くの方々が来場されていると伺っております。富山で開催する巡回展においても、市民の皆さんはもとより、全国から多くの方々にご来場いただき、木梨さんの多彩な作品の世界に浸っていただきたいと思いますと考えております。

また、本展覧会を機に、富山市ガラス美術館で、数多くのガラス芸術作品をご堪能いただくことを期待しております。

## ■令和元年度の富山市ファミリーパーク年間入園者数について

市長

令和元年度の富山市ファミリーパークの年間入園者数が、348,101 人となり、これは昭和 59 年の開園以来、歴代 1 位となりました。

今回、歴代 1 位を記録した要因として、昨年 3 月にニホンライチョウを公開したこと、レッサーパンダの子どもを公開したこと、また 11 月から冬期開園中の天候に恵まれたことにより、来園者が増えたことがあげられます。

また、「富山市博物館等共通パスポート」や「孫とおでかけ支援事業」が定着し、子どもをもつ家族だけでなく、市民の健康寿命をのばす本市の施策と結びつき、幅広い年齢層にご利用いただいていることがあげられます。たしか、私が初めて市長になった年は 27 万人だったと思いますので、それと比べると約 34 万 8 千人は随分大きな数字だと思っています。

なお、ニホンライチョウに関しては、現在オス 7 羽、メス 5 羽を飼育し、今年も昨年に引き続き親鳥による自然抱卵・育雛による繁殖を目指す取り組みをしています。また、中央アルプスでのライチョウ復活を目指す環境省の計画にも参画し、当園で生まれた卵の一部を中央アルプスに移動する可能性があるため、その準備を進めているところであります。

今後とも「いのちの博物館」をテーマに「森を元気に、人を元気に、いのちを元気に、地域を元気に」のコンセプトのもと、ファミリーパークと呉羽丘陵を一帯化した事業を進めてまいりたいと考えています。

## ■ 薬業に関する社会科副読本「くすりのまち とやま」について

市長

富山市教育委員会が平成 30 年度から作成を進めておりました薬業に関する社会科副読本「くすりのまち とやま」でございます。

この副読本の作成にあたり、多くの薬業関連企業のほか、大学、高校、関係機関のご協力をいただいております。ここに敬礼申し上げます。

薬業はご存じのように、富山の伝統的な産業のひとつであり、私たちの暮らしと深く結びついております。この副読本には、「薬業の歴史」や「売薬さんの仕事」、「薬ができるまで」などが掲載されております。

この副読本を使って学習することで「富山のくすり」と「くすり」にかかわる仕事への理解を深めることはもちろんですが、県外の方に「富山の薬」について質問されたときに、自信を持って説明できるようになるなど、シビックプライドにもつながることを期待しております。

対象は小学校 5 年生の社会科で、「私たちの生活と工業生産」の中で 5 時間程度学習することとしております。

なお、この副読本は、子どもだけでなく、この本を子どもが家庭に持ち帰り、家の人もいっしょに富山の薬の歴史や素晴らしさについて学ぶ機会になれば幸いです。

教育委員会が発表しないで、なぜ私が発表したかと言いますと、これは、札幌市が小学校の副読本で使っているもので「私たちの札幌 3 年下」と書いてあります。

これが冒頭、札幌ラーメンのことばかり書いてあるのですね。どうやって作るとか、どういう店があるとか、どうやって売れているとか。

これは富山経済同友会代表幹事の麦野さんから4年ほど前に紹介をいただきまして、札幌ではみんなこういうものを勉強していると、富山でも作ったらどうだという提言をいただきまして、まさかブラックラーメンという訳にもいかないの、やはり薬業だろうという思いで教育委員会にお願いをして、予算化してきたものです。

後ろのほうに協力者とか協賛企業のリストもありますが、大変たくさんの方にご協力をいただきまして、実に充実した内容のもののできたなと思っています。

そもそも大人でも反魂丹の起源から、いろいろなことが語れるかというところではない人もたくさんいるわけで、そういう意味ではこれをさらっていただければいいかなと思います

さらに、薬業というものがいかに裾野の広い産業であるかということがこの本を見るとわかってきますし、世界へ向けて輸出されている富山の薬が実は今の時代に合ったものがあって、働いている人や生産金額も大変大きいということなどもこれで学ぶことができます。

まさに富山で生まれた子どもたちが将来、国外や県外で暮らすことがあっても富山の薬を語るができる、そういう子どもたちとして成長してほしいと思っています。

あまり教育委員会のことを自分で言ったりしないこととしていますが、このことはそういう背景もあって申し上げさせていただきました。

---

## ■ 質疑応答

### 記者

森市長が注力しておられました「路面電車の南北接続」が3月21日に完了しまして、来年4月での退任を表明しておられる森市長の任期も残り1年となりました。森市政の集大成となるこの1年にかかる思いをお聞かせください。また、先ほども触れましたが、南北接続が完了して10日ほどたちますけれども、その効果について、わかる範囲で教えていただけれ

ばと思います。さらに、市長の後継選びについては現在、どのような状況になっているのでしょうか。合わせてお聞かせください。

市長

まず一番最後の質問について答えますと、2 カ月か、1 カ月ほど前にも質問されて言いましたが、大事なことは強い意欲を示して手を挙げていただく方が出てくることなのであって、私が後継指名するとか、あなたにお願いしますなどと言う形で動くものではないと思っていますので、(私の任期も)あと1年となりましたが、ぜひ然るべき時期に強い意志で自分のビジョン、政策を掲げた有為な人が手を挙げていただくことを期待しています。

その上で、その方を支援するかどうかということはまた別の問題ですが、強い意志のある人であれば大いに支援をしたいというふうに思っています。そういうものであるべきだと思います。みんなであの人にしようとか、辞めていく者が後継を指名するなどということは本来的ではないのではないかと。

そもそもメイヤーというのは市民の代表という意味なので、やはり市民の中から強い意志を示して誰かが手を挙げ、それを支える大きな輪、動きが生まれてくる、そして選挙に臨むというのが望ましいだろうと思っていますので、そういう意味では、質問の答えとしては、今どなたの名前も聞こえていませんし、どなたの名前も頭にありません。

そして、最初の質問ですが、3月21日は(皆さんの)ご記憶にあるとおり、大変多くの方に来ていただいてよかったと思いますが、これはある意味でのイベントですので、どういう形で常態化していくのか、そういう意味では、もう少し落ち着きを待ってみる必要があるだろうと思います。

年度末、年度始めは学校も休みで、高校生の利用などが無いわけですから、新学期が始まって学校が再開された時点、あるいは4月に新しく仕事を心得て通勤が始まる人、例えば沿線の大きな製薬メーカーなども仮に異動、転勤などがあつたとすると、そういうことが落ち着いた後に利用がどうな

っていくかということをしっかり見る必要があるだろうと思っています。

もともと富山地方鉄道の(JR 富山駅)南側の路面電車は毎日約1万人の利用者がいますし、富山ライトレールは毎日、平均して約4千人の利用者がいるわけですから、単純に足すと1万4千人です。

それが1万6千人になるのか、1万8千人になるのかという相乗効果を期待しているわけです。間違いなく増えると思います。

いつも言ってきましたが、210円足す210円が210円になったわけで、ICカードを使えば180円に、さらに1日3回使うと4回目から無料に、つまり540円を払うと1日乗り放題ということなどが、やはり評価されていくだろうというふうに思います。

通勤定期(の金額)もかなり下がる人も出てくるわけなので、企業もマイカー通勤よりも路面電車を使った通勤を奨めるといふ動きもやがて起きてくるでしょうし、大事なことは単に利用が増えるということではないわけですが、まずは利用が増えて、利用度が上がるということが大事です。その上で、高齢者が元気になるとか、子どもの通学形態やルートが変わるとか、暮らし方が変わるといったことに繋げていかなければなりません。

少なくとも、ライトレールの富山駅に近い距離で暮らしておられた方々は今までライトレールは使っておられないと思いますので、乗っても富山駅ですぐ終わりですから、その皆さんが中心商店街へ通う頻度は上がると思います。そういう形で、少し落ち着いて数字を見ていきたいと思っています。観測はしています。

最終的に目指しているものはもっと視点を広く持っているわけで、路面電車で大学前まで行って呉羽丘陵のフットパスを使うとか、将来、橋が完成したときには自転車のアヴィレ(自転車市民共同利用システム)で呉羽まで行って呉羽丘陵を楽しむとか、逆に、今まで岩瀬方面へはあまり行く機会がなかった人たちが行くとか、高校生が電車で海水浴に行くとか、そのようなことになってくればいいなと期待していますので、落ち着いて成果を観測していきたいというふうにしています。

そして、この1年にかかる思いとおっしゃいましたが全くそうで、あと1年、毎日充実してしっかり仕事をしていきたいと思っています。

少しカタカナ言葉を使い過ぎだと、「フィジカル空間のスマート化」と言っても何のことか全くわからないと叱られたので、うちの父親も「お前の言っていることはわからない」と。

つまり現実空間として、具体的な空間としての移動の整備というものは一定程度進んできたわけです。

ここから先はやはり、センサーネットワークに代表されるような様々なICT(情報通信技術)、そういう次の時代、スマート社会へ一歩も二歩も踏み出していかななくてはいけませんので、そういう最初の半歩のようなものをこの年度に作っていくことが大事だろうと思います。

そういう意味では、センサーネットワークの民間の社会実験(実証実験事業)でいろいろとやっていただいて、発表もありました。

あのようなことの中で、常態化して手を挙げていただくものがどれくらい出てくるのか、あるいは富山市として、これからどういう取り組みをやっていくのか(ということです)。

具体的に言えば、例えば、中山間地の上流域で雨量計で絶えず雨量を計測しながら、それが中流域や下流域の水位にどう影響するのかというデータを蓄積していくといったようなことなどが、市の仕事として、どうしても必要だと思っています。それは一度にはできませんから、そのようなビジョンの方向付けだけでも、今年度でしっかりやっていきたいと思っています。

整理して言うと、昨年度までに現実空間、物としての空間の整備や人の暮らし方としての意識改革といったことが一定程度できたと思います。

市民のシビックプライドも随分高まってきて、自分たちはいい街に住んでいると思っている人が15年前と比べて随分多いと思います。

その上で、次の時代、次のスマート化に向かってのまず最初の一步を作るという1年にしなければならないと思っています。



そして、そうは見えませんが、(市道に)白線(区画線)をしっかり描くなどということも自動運転の時代を睨んでのことなのです。

ある方に(市道に)白線を引き直すことがそんな(重要なこと)なのかというような見方も言われましたが、そうではないので、睨んでいるのは自動運転の時代です。

様々な施策がちりばめられていますが、スマート化へ向けた思いというものはいろいろなところに込められているということです。

全ての部局が、今日からしっかり予算の執行を急いでやっていくということが大事だと思います。

---

#### (発表項目についての質疑なし)

市長

それでは、私から一点、先日報道を見ていて、少しニュアンスが違うなと思ったことがあったので、それだけもう一度あらためて報告させてください。

富山商工会議所も一緒になって組み立ててきているチンドンコンクールの実行委員会が主催者なので、(チンドンコンクールが)中止に至った背景というものをもう少し正確に述べさせていただきたいと思います。

当初は規模を縮小して、パレードはやらないこと、それから、コンクールはチンドンマンの皆さんも楽しみにしていらっしゃるから無観客でやると言っていたのですが、全体を止めたわけです。

なぜ止めるに至ったかと言いますと、東京から 12 チームの参加が予定されていました。全国から全部で 32 チームが出るわけですが、そのうちの 12 チームが東京からの参加です。

非常に歴史のあるチームもたくさんある中で、(チンドンの) 業界の言葉で言うと有名な親方が何人もいらっしゃるわけですが、その何人かの有力な親方から、今の状況で東京からチームで出てくるといのは不安や危険度の様なものを担いでくるようなことに取りられかねないので自粛したいという申し出があって、最終的には 12 チームがまとまって今回は参加しないという申し出がありました。

32 チーム中の 12 チーム、特に老舗の東京のチームが参加されないという事は、本来のチンドンコンクールの有り様から言うと、少し盛り上がり欠けるということから、実行委員会で協議をして中止を決めたということです。

富山市や富山商工会議所を含む実行委員会の姿勢としては、縮小してもコンクールはやりたいという気持ちでいたのですが、参加チームが減ってしまったのは水準の問題もありますので(中止を決めた)ということです。

なお、以前にも(チンドンコンクールを)止めたのは東日本大震災が発生した年に止めております。このときは、東日本大震災があつて富山で出来ないということではなかったのですが、当時、天皇、皇后両陛下から当分の間、分かりやすく言うと、賑やかなことは自粛しましょうというお話しが出て、皇室も4月一杯そういうふうにするという報道がありましたことを受けて、随分迷ったのですが取り止めたという歴史はあります。それ以来2回目ということです。

---

## 記者

保育士の方の感染が確認されて、その方が担当されていたお子さんの兄弟などが富山市内の小中学校に通っている可能性がある中で、学校の対応というものについて、どのように市教育委員会に求めていくのでしょうか。

市長

それは後から教育委員会に聞いてください。それは 100%、教育委員会の所管事項なので。聞いていますけど、どう対応するかは、教育長が後で記者会見するのでしょうか。その中で、きっとその話しも出ると思います。

記者

市長のお考えとしてはどうでしょうか。前回例えば、学校の一斉休校を国が求めたときに市長のお考えで 2 週間というふうになった経緯があったので。

市長

教育委員会という行政委員会は極めて独立性の強い組織なのであって、市長部局の執行者である私あまり口を挟むことではないと（思います）。

ところが、共通のテーブルである総合教育会議というものが今の制度で出来て、そこには市長が参加していいわけで、この間は総合教育会議を開いて、そこで私の意見を言ったということなのです。

だから、もしも今後、総合教育会議が開かれるとすれば私の意見はそこで言いますが、後から教育委員会が語ると言っているのに、今ここで私の意見を述べるというのは正に予断を生むので後から聞いてください。

ちゃんと考えているはずですが、どうするか。私は楽に見えるけど原理主義者なので、そういうところは。

=====

記者

新型コロナウイルスの情報公開の件でお尋ねしたいのですが、昨日午前中に市長が会見されて、午後から石井知事が発表の中で会見され、情報発信のあり方として、森市長の発言について知事は「大きな誤解をしておられる」というようなことを言っておられました。

トップ同士での話し合いも一つの選択肢であるというようなニュアンスのご発言があったのですが、今後の情報発信のあり方について、当然富山市は富山市で保健所の管轄がありますが、それ以外でも市と県の連携が

重要になってくると思うのですが、知事のご発言を受けて今どのように思っておられるのかということをお聞かせください。

市長

知事はしばしばそういうところがあるのです。あらかじめ決めておいたことなのにそうしないで勝手に発言をしたり、自分の思いで勇み足みたいなことが起きたりするわけです。

そういうお人柄なので、一生懸命やっていたらだと思いのですが、現場の職員からしてみると、一生懸命、富山市の職員がやっている中で、市からの情報が遅いとか、市からの情報量が少ないとかいう発言があったようですから、それに対して私は職員を守る立場から、それはおかしいでしょうと。

富山市で起きた案件は富山市が発表するという県との約束事が決められていたにもかかわらず、自分の目から見たら市の発表の仕方が遅いと感じたからといって、その約束事を破って自分で言うという姿勢はおかしくないですかというのが私のスタンスなのです。

そうしないと、一生懸命やっている職員が、情報の出し方が遅いとか(言われるのは)、それは違うでしょう。

かつ、富山県庁という組織の文化と、富山市役所という組織の文化とはまた違うし、ものの考え方としては、どちらかが正しくて、どちらかが間違っているというものではないと思っているわけです。どちらも正しいだろうと思います。

だけど、私たちは、事柄にもよりますが、今の事柄に関しては落ち着いて正確に情報を把握しながら、かつ大事なことは今の場合で言うと、最初の陽性反応が出た方との信頼関係の構築が大事なのです。

そういうことに腐心してきたからこそ、最初は飲食店で4人で食事をしていたと言っていたものが、実は車の中に長時間いましたということが出て来たわけです。

それは富山市の対応をしっかりと信頼してもらったからで、最初から言えばよかったけど実はこうだったのですと。ここが大事なのです、今後も。

例えば、ご両親が離婚なさっていて、お母さんに内緒でお父さんに会っていたとしましょう。お母さんに知られたくないような事情だってあるかもしれません。

いい例が思い浮かばなかったのですが、そういうようなことは世の中にあるでしょう。そういうときに、ただセンセーショナルに物事を声高に言うただけでは、本当はこうでしたというところが埋没していく可能性があるわけです。それを一番恐れているのです。

だから、まずは信頼関係を作ると。富山市の担当者については、実は最初は言ってなかったけどこうだったんですよと言ってもらえるような信頼関係を作ることの対応について、それがすごく大事だと、重要だと思っているわけです。

だけど、そうではない対応は間違っているとは言っていないのです。私たちはこういうやり方をするということは申し上げているわけです。

そもそも新型コロナウイルスの問題は世界全体で、グローバルでわかっていないわけですね。発生原因も背景も、感染経路もわかっているようでわかっていませんし、そもそも対症方法もわからない、ワクチンもない世界的な問題なわけです。

万一どこかである人との接触が埋没していってしまうと、正に感染経路がわからない一つのルートがそこにまた作られていってしまうので、なるべくそうならないように信頼関係を作りながら正確な情報を把握していくことが大事だと思っているわけです。

最大の目標は何かと言うと、一人の市民の犠牲をも出さないということです。県で言えば一人の県民も犠牲を出さないということが最大の目標なのです。

そのためにどうすることが最適なのかということを私たちは真剣に考えているわけで、例えば保育園の案件だったらどの範囲の人まで検査してもらうか、どの範囲の子どもたちまで検査してもらうか、これは現場の状況をよく調べながら民間の保育園であるけれども保健所としては協力要請をお願いすると。

協力されると思いますけれども、説得するというくらいのスタンスで臨まないといけないということです。そういうことを着実にかつ正確な情報を集めながら、外から、なんとなく靴の上から足を搔いているように見えても、その派手さなんて私たちは全然求めていないのです。大事なのは一人の市民の犠牲も出さないということなのです。

そのために外から見て見栄えが悪くても愚直にやっていくことが私たちのスタンスです。スピードだけが全てじゃないと思っています。

うまく伝わったかわかりませんが、ぜひ理解してほしいのです。

なぜなら予防ということが一番大事なので、市民に今まで以上に予防の姿勢をしっかり作ってもらうためには、皆さんの力が必要なのです。

メディアの力なしに市民に伝えることなんて出来ないのです。

世界的な問題であること、一人の犠牲も出したくないと思っていること、それを市だけではなくて、メディアの皆さんも一緒になってしっかり市民に伝えていくことが大事なのです。

治療法がないのですから、予防するしかないのです。感染しても初期に対処するというように誘導していくことが大事で、広がりを防ぐということだと思っています。

いつもは、あまり熱っぽく話さないのですが、大事なことだと数日前から自分の中で（思っていて）、難しい問題だけど一犠牲を出したくないこと、みんなの力でやること、これしかないと思っています。

## 記者

この件について市長と石井知事は、おそらくお考えが違うのですけれども、この点において知事と具体的に意見交換をすとか、きちんとルールを定めるとか、そういうことに動こうというお考えはあるのでしょうか。

## 市長

定まっているのです。富山市で起きたことは富山市で発表すると。最初から定まっているのです。その通りやってもらえばいいのです。南砺市で起きたことは県がやると、それは保健所の管轄が違うから。最初から県の

厚生部と市の福祉保健部でそういう申し合わせが出来ているのです。その通りやればそれでいいのです。

記者

改めて知事に申し入れるとか、念押しをするとかということは。

市長

そんな失礼なことではできませんよ。あなたはお気づきではないかもしれませんが、こうなっているのですよと私が言いに行く、そんな僭越なことはできません。

ご心配はよくわかるのですけれども、私の中ではいつも、このことのみならず、いろいろなことについて、メディアの出されるニュアンスというものが自分の意図することと違うことはしょっちゅうあるのですが、それは仕様がないうことだと思っているわけです。

例えば、幅広い市民の中には、私が思っていることとは全然違う内容やベクトルで市の施策を捉えている人もいっぱいいるわけですが、一人ひとりに「もしもし、違うのですよ、こうですよ」などと言うことはできないわけです。

結果として市民にきちんとしたベネフィット（利益、恩恵）がもたらされれば、それでいいと思っているわけです。一時期よく使ったけれども、勝海舟の有名な言葉です。「行蔵は我に存す、毀誉は他人の主張、我に与からず、我に關せず。」です。「人はどう思ってもいいから、いい仕事をやる。そういうことが私の思いだ。」という意味です。時々難しいことも言うのです。

記者

確認ですけれども、知事とお話しをされるつもりはないということですか。

市長

機会はあるでしょう、いろいろな会議で。確約はできませんけれども。

記者

臨時休校の件で、外形的に見ると教育委員会が一回決めたことを、市長の発言でひっくり返ったというふうに見られてしまうのですけれども、市長はいわゆる教育委員会の独立性というものに関して、どこまで意識してあの日は発言をされたのかということについてお聞かせください。

市長

総合教育会議が予定されていたわけです。そして、午後1時から私は記者会見をしていたわけです。そのときに教育委員会が開かれているということを知らなかったわけです。

私には私の思いがあったのですけれども、教育委員会が開かれていて、一定の方向が決まっていて、その後で総合教育会議が開かれたので、教育委員の皆さんに私の意見を述べさせてもらったわけです。

そうしたら、教育委員の皆さんが、それではちょっと考え直してみましようかということになって、改めて教育委員会が開かれて、最終的に教育委員会で決められたと認識しています。

記者

教育委員会の独立性に対して侵害したというような認識はないということでしょうか。

市長

総合教育会議の外でものを言ったわけではないので。そういうことができるからこそ、その会議の意味ではないでしょうか。以前は全く教育行政にものを言う立場ではなかったわけですが、新しい制度によって、そういう場を作られたということで、良い経験、良い体験だったと思います。

記者

新型コロナウイルスの情報公開に関して、今回の保育士の感染について、保育所から保護者にメールがあつて市の発表は今日になったということ



ろで、メールが拡散する中で、当社にも疑心暗鬼になった市民からの問い合わせが多くあったのです。そういうことを考えると、昨日のタイミングで何かしら発表する余地はあったのではないかという思いはあるのですが、どうでしょうか。

市長

先ほども言ったように、我々の判断は正しかったと私たちは思っているわけです。あくまで民間の社会福祉法人なのであって、その同意が得られない中で、保健所の判断で、実はこういう事実がありましたということは言うべきではないと思います。

夜でしょう、陽性がわかったのは。真夜中まで民間の社会福祉法人が動いているわけではないので。連絡を取り合う中で、発表の仕方というものをお互いに協議してきたということです。

記者

今回のケースで言うと、園児や保護者など関係する方がたくさんいらっしゃると思いますが、それでもそういう判断になったということですね。

市長

園は園の判断で保護者に対してメールを送ったらしいのですが、それはそれで、そこ（園）の判断ですよ。後は、具体的にどういう濃厚接触者がいたとか、何人だとか、わからないわけです。

わからない中で過剰な反応をされても困るので、民間の社会福祉法人の運営に影響を与えてしまうようなことは出来ませんから、あくまで同意の上で、「この時点でここまで言います」ということではないといけないというのが、私たちのスタンスです。

=====

記者

新型コロナの情報公開の件で、プライバシーや信頼関係を守るのが重要だという市の方針は重々承知しているのですが、市民の方も疑心暗鬼になっておられる方が恐らく多いと思います。

(市は) 感染者、患者の方の利用された飲食店の店名を出さないとされています。今日も、これだけ感染が急速に広がっている中で、最初に訪れた店の店員さんがPCR検査を行われると聞きました。今後も店名を出されるお考えはないのでしょうか。

市長

たくさんの方が夜中に集まって音楽をやるとか、お酒を飲むとか、不特定多数の人が何十人も集まって、そこから出たというケースであれば、一人ひとりがどこへ移動しているかわかりませんから、ここを利用した人は注意してくださいという趣旨で、不正確であっても患者が出たという事実だけがあれば、その余の情報は不十分でも発表する必要はあると思います。

ですが、特定の店がわかっていて、どういう状況で食事をされていたかもわかっていて、濃厚接触者ではないということが保健所の調査でわかっているわけです。

そういう状況で店の名前を発表するということは制度上、検査を要請するという根拠が何もない状況の中ですよ。

そういう中で、ある特定の店名を発表するというのは明らかに民業圧迫です。安全だということはわかっている、それは申し上げたわけです。

記者

実際、市民の間で、この店があぶないとか、この施設が実はそうなんじゃないかと、ある種の風評被害が出ているということもありますが。

市長

そのようなことは、市民が無責任な風評を拡散することに責任があるのではないですか。確認が取れていないのに。

記者

今、利用された店名を発表しないというのはあくまでも安全だというふうに認識されているから出していないということですね。

市長

そうです。保健所が安全であることは確認しているわけです。そうしたら、義務はないけれども、念のため検査をするとそのお店はおっしゃっているわけです。

それ以上なぜその店の名前を言う必要があるのか、全く理解できません。個人の経営や営業の権利、そういうものを行政が積極的に侵してはならないという細心の注意を払わないといけません。デリケートなポイントだと思います。

=====

記者

市長が昨日からおっしゃっている、信頼関係を築くことが大事だと、落ち着いて正確に、スピードだけが全てではないというご意見は十分理解した上で、とは言え報道機関として、いち早く伝えていくということの有効性もあると思いますが、どうでしょうか。

市長

皆さんのスタンスや文化があるということはわからないではないですが、私たちには私たちのスタンスがあるので、いろいろな選択肢がある中で今の対応を選択したということです。

記者

信頼関係を築いていくということと、いち早く伝えるということは決して対立するものではなく、共存できるのではないかと考えていて、もう少し高次元の情報管理というものもあるのではないかと考えます。

社会の公益性として、当社にも不安や怒りのメールが届いていて、不安が広がっている中で、いち早く情報が発信されないことに対する不信感もまた一方で広がっているのではないかと考えたときに、情報の出し方というのは、もう少し工夫があってもよいのではないかとと思いますが、どうでしょうか。

市長

先ほど言ったとおりです。それはもちろんケース・バイ・ケースです。

今のことは、わかりやすい成果ではないですか。最初は言ってらっしゃらなかったことが出てきたのですから。実は4人で3時間、車の中にいました。それは信頼関係が構築されたから、「最初は言ってなかったけど、実はこうだったんです。」ということが出てきたのではないですか。

社会全体として非常に良かったと思っています。そのことを導き出せたということが。

---

※ 発言内容を一部整理して掲載しています。・・・富山市広報課